



院長 中山顕児



新年あけましておめでとうございます。 今年もよろしくお願いいたします。



年頭の挨拶

新年明けましておめでとうございます。昨年度は院長に成り立てで、前院長の跡を追いかけるだけの1年であったような気がいたします。医師会の先生方をはじめ、職員にも迷惑をかけてしまったようです。しかし、今年にははっきり目標も定まり、第二次3カ年計画の19年度分の実施です。これもPDCAサイクルを常に意識しながら実施することであります。ただ今年度一番大きな課題として、市長のマニフェストの一つ“市立総合病院ありかた検討委員会”の答申が秋頃には出る予定だそうです。経営形態の変更によって、当院職員の意識改革が急務となるでしょう。

しかし、経営形態が例え変更になっても、医療の質の低下や地域中核高度急性期医療の変更はなく、常に我々は医療の質の向上に向かって突き進み、医療の本質をわきまえた、かつ医療人として決して失ってはならない、最後の砦“医療魂”をもって19年度も地域医療にまい進する所存であります。全ては患者さんのために！！

本年は当院にとって、大切に有意義な1年になることを願って、院長の年頭のご挨拶に代えさせていただきます。



明けましておめでとうございます。皆様それぞれ「イノシシ」の抱負を持ち、新年を迎えられ平成19年をスタートされたと思います。当院の看護師は、病棟・外来含め236名で、10:1入院基本料を取得しています。病院の理念である「良質で高度な医療を提供し、市民に愛される病院を目指します」をモットーに、看護部の質の向上を図りながら、専門性を生かし、一人一人が創意工夫をしながら、心のこもったサービスを提供しています。

少子高齢化・疾病構造の変化・社会情勢の変化・医療の高度化等により、保健医療福祉制度が大きく変わってきており、その中で看護師・保健師・助産師の役割は拡大してきています。それに伴い救命救急医療の発達により、

身体的機能障害を抱えながら、患者さまが地域で生活できるように、医療が病院自己完結型から地域医療連携に移行していますので、それを実現するには、地域連携クリティカルパスが重要になってきており、診療報酬に大きく評価されます。今以上に良質な地域連携医療を目指していきたいと思っています。本年もよろしくお願いいたします



看護部長 村上裕美



マットレス勉強会の開催報告

平成18年12月18日に行ったマットレス勉強会(当院の褥瘡対策委員会主催)は、当院以外からの参加者21名を含み、総勢50名程の出席でした。内容は、予防を中心に実演を交えて行われ、さまざまな褥瘡対策の知識や知恵を得る事ができました。加えて、当院外のスタッフの方々とのコミュニケーションを図れる機会となり、短時間でしたが「顔の見える連携」が出来たことはとても有意義でした。

今後も、「開かれた病院づくり」を目指して、勉強会等の開催案内をしたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



勉強会当日の様子